



発行所  
山口県小学校長会  
代表者 田中邦明  
校長会事務局  
山口市大手町2-18  
☎ 083-925-2919  
FAX 083-925-6776  
印刷所  
大村印刷株式会社

# 平成二十八年度の活動を振り返って



山口県小学校長会 副会長 松田 伸宏

## 一 はじめに

本年度は、全国連合小学校長会とともに歩み、連携を深め、平成二十七年十月に本県で開催された、第六十七回全連小研究協議会山口大会の成果と課題を検証し、研究内容のさらなる深化を図る年であった。

また、全連小山口大会で見せた、本県のチームワークを更に深めるための一年間と意識し、平成二十八年度山口県小学校長会は、田中邦明新会長のもと、十五支部、会員数二百九十七名で新たなスタートを切った。

五月十日に開催された第六十八回総会並びに春季研究大会では全国大会の成果を引き継ぎ、「新たな知を拓き人間性豊かな社会を築く 日本人の育成を目指す小学校教育の推進」を志を高くもち 未来に向かって 共にたくましく生きる子どもを育てる学校経営の推進」を研修主題・副主題とした。

また、研修の視点ごとに分科会を設け、研修担当支部での実践をもとに研修を深めることを確認した。

さらに、本理事会における情報交換の基本テーマを「先見性のある学校経営」、年間テーマを「危機管理と校長の役割」と設定し、校長としての危機管理能力の向上に関する事項を、各支部の校長先生方へ情報提供できるように取り組んできている。それらの活動について振り返ってみた。

## 二 災害時における校長の危機管理

近年の異常気象による、これまで経験したことのない豪雨等の災害や、それに伴う、道路やライフラインの寸断による日常生活への影響が我々の日常を脅かしている。

また、東日本大震災以降も、熊本地震や鳥取県中部地震など大きな地震が頻発しており、子どもたちの命を預か

る校長の危機管理は、喫緊の課題である。

第三回理事会では、下関地方気象台及び日本赤十字山口支部のご協力を頂き「命を守るために知ってほしい 特別警報」の研修を行った。特別警報はどのような時に発令されるのかについて学び、地図上に示された地形をもとに、予想される被害、避難経路などをグループで協議する内容であった。報道では、「想定外」とか、「これまで経験したことのない」といった言葉が頻繁に使われる昨今、子どもたちの命を守る校長として、的確な状況判断の必要性を再認識した。

## 三 学校の危機対応

### ↳ 避難訓練の見直しを

十月に開催された第三回理事会では、山口県教育庁学校安全・体育課 秋川主幹をお招きして、学校の危機対応について研修を深めた。

講演では、具体的な事例をもとに、学校に起こる危機に校長としてどのように対応すべきかについて学ばさせて頂いた。

特に指摘された点は、従来のような型にはまった避難訓練の方法を改め、例えば日時や状況を明らかにしないなどの訓練の在り方であった。

## 四 おわりに

これらの課題を互いに意見交換し、共有していくことが、県内の校長全員との確かな危機管理につながっていくのではないだろうか。

## 全連小報告

第六十八回全国連合小学校長会  
研究協議会高知大会に参加して

柳井市立柳北小学校長

村崎 賢一



第六十八回全国連合小学校長会研究協議会が、自由民権運動発祥の歴史をもつ高知県で、「新たな知を拓き 人間性豊かな社会を築く日本人の育成を目指す小学校教育の推進」を大会主題として盛大に開催され、二日間わたる研究協議が熱心に展開された。

初日の午後、分科会に分かれての研修となったが、私は第一分科会「経営ビジョン」に参加した。特に、子どもたちの未来の姿を見据えた中・長期的な視点を有する考えをもつ「そして、「教職員・保護者・地域住民と課題を共有し、具現化していく」方針を示していく」という二点を研究の視点とし、校長の果たすべき役割や指導性について協議した。全国各地から参集した校長は、勤務先の地域性や子どもの実態は違えども経営者としての立場は同じである。それぞれの立場で熱のこもった議論になったことは言うまでもなく、大変よい勉強になった。

最後に、文部科学省講話の骨子を掲載して報告にしたいと思う。まず、「与えられた資源で最大限の成果を上げる」ことが校長には求められると話された上で、これからの学校経営では「防災対策の徹底」「新学習指導要領へのスムーズな移行と授業の質的改善」「学校を核とした地域づくり」「いじめ防止対策の徹底」の四点を重点的に推し進めるように指導があった。

この度は、このような機会を与えて頂き心から感謝を申し上げます。

# 研究紹介

## 学校安全

### 命を守る安全教育・防災教育の推進

— 学校防災と地域防災をつなぐ校長の役割 —

防府市立向島小学校長

金 嶋 敦 浩



#### 一 はじめに

今日の自然災害は東日本大震災をはじめとして、甚大な被害に繋がるような災害が(いつ)(どこで)(どのように)発生するか全くわからない。

そのような中、学校では組織的に子どもたちに自助の精神を身に付けさせていくとともに、地域防災を巻き込んだ共助の動きを、地域づくりの担い手として、学校が核となり創っていく必要がある。

本支部では、避難訓練の見直しや、地域、行政との連携を生み出していく校長の役割について研究を進めることとした。

#### 二 研究の実際

(一) 学校において「自助」と「共助」の大切さを子どもたちに身に付けさせていく防災教育の推進

- ① 災害発生時に必要な防災機能は自助7・共助2・公助1。いかに子どもたちに「自助」を身に付けさせていくか。「共助」を生み出すか。

すか。

- ② 東日本大震災から学ぶ「津波でんでんこ」の真意とは

ア「自助原則の強調」  
イ「他者避難の促進」

ウ「相互信頼の事前醸成」  
エ「サイバイバーズ・ギルトの軽減」

- ③ 防災ゲーム「クロスロード」を参考にした授業実践

④ 「共助」のための保護者・地域住民の意識啓発を図るための学校防災の情報発信

(二) 学校における避難訓練の在り方を見直すための校長のリーダーシップ

- ① 課題や落とし穴に気付き、有事に本当に生きる避難訓練

② 家庭・地域とともに実施する避難訓練

③ 幼保・小・中・高の連携による避難訓練

#### 三 校長の役割

(一) 自校の避難訓練の在り方を見直すための指導助言



防災ゲーム「クロスロード」を参考にした授業

(二) 子どもたちに「自助」と「共助」の力を身に付けさせるような安全教育・防災教育の組織的な体制づくり

(三) 危機管理体制のより一層の整備と、地域特性を踏まえた組織的・計画的・継続的な安全教育・防災教育の推進

(四) 学校と地域との連携をもとに、地域コミュニティで創る自主防災組織立ち上げに向けた学校の役割創出

#### 四 成果と課題

(一) 成果

- ① 避難訓練の質の向上による危機回避能力を育む安全教育・防災教育の充実
- ② 学校防災と地域防災の連動と一

体化を目指した動きの創出

- (二) 課題
  - ① 学校防災と地域防災の連動と一体化に向けたカリキュラム作成及び実践の累積と分析

② 地域の災害特性や違いを踏まえた、学校間での情報交換

③ 教職員の異動等が支障とならない、連続性のある取組の創出

#### 五 おわりに

有事の際に学校が直接できることは限られている。学校がすべき第一は、「自助」を子どもたち自身にいかに関与、併せて「共助」を担うことのできる人へ育てることではないだろうか。第二はコミュニティ・スクールとして、地域防災にも踏み込みながら、地域の「共助」にかかわっていく姿勢ではないかと考える。



地域住民と一緒に避難訓練

# 研究紹介

## 危機対応

### 様々な危機に適切に対応する 学校体制の構築

～家庭・地域・関係機関等との連携を通して～

宇部市立小羽山小学校長

網本 徳文



#### 一 はじめに

いじめ、不登校、感染症、食物アレルギー、ネットいじめ、児童虐待、学級崩壊など、学校が対応すべき危機は増え続ける一方である。そして、これらの問題を学校の力だけで解決することは、今や非常に困難である。

しかし、幸い山口県は、すべての小中学校に「学校運営協議会」が設置されるなど、地域とともに学校運営を行う体制の整備が進められている。

そこで、宇部市校長会では、「学校運営協議会」や各専門機関等の地域力、組織力を学校危機を乗り越えるための手段として活用できないかと考え、そのための実践研究を進めてきた。

#### 二 研究の視点

次の三点を主な視点とし、研究に取り組むこととした。

- (一) 地域の力をどの場面でのよう  
活用するのが最もよい方法なのか。
- (二) 地域や関係機関とどのような連携

を図ることが望ましいのか。

- (三) 校長としてどのようなリーダーシ  
ップを発揮すべきなのか。

#### 三 研究の内容

##### (一) 研究推進体制

研究を進めるに当たっては、各小  
学校が実際に対応に苦慮している問  
題を取り上げ、「いじめ」「不登校」  
「保護者対応」「学級崩壊」「食物ア  
レルギー」の5つの対策部会を立ち  
上げることにした。

##### (二) 各部会の取組

##### ① 「いじめ対策 部会」の取組

学校運営協議  
会を構成する委  
員や団体の見直  
しなど、コミュ  
ニティスクール  
の組織を活用し  
ていじめ事案に  
対応するための



校長会部会別研究協議の様子

研究を進める。

##### ② 「不登校対策部会」の取組

不登校児童やその保護者に対する  
校内支援体制の再構築など、地域ぐ  
るみでの継続的な支援体制を確立す  
るための研究を進める。

##### ③ 「保護者対応対策部会」の取組

保護者対応に特化した対策チー  
ムの設置を市教委に働きかけるなど、  
保護者のニーズに対応するための、  
校長の役割と地域連携の在り方に  
ついて研究を進める。

##### ④ 「学級崩壊対策部会」の取組

学級崩壊を起こさせないための手  
立てや方策の段階的なイメージ図の  
作成など、コミュニティスクールの  
マンパワーの活用の仕方について研  
究を進める。

##### ⑤ 「食物アレルギー対応部会」の取組

宇部市共通の「食物アレルギー対  
応マニュアル」の作成など、給食を  
中心とした食物アレルギーへの対応  
について研究を進める。

#### 四 校長の役割

##### (一) 地域との対話

学校の都合のよい時だけ地域に協  
力を依頼しても、地域は親身になっ  
てくれない。校長は日頃から積極的  
に地域に向き、学校運営方針等、  
校長の「夢」をしっかりと地域に語り  
続けることが大切である。

##### (二) コーディネーターの育成

学校が地域と一緒に物事に取り組  
んでいくためには、支援体制づくり

を行うコーディネーターの育成が急  
務である。いつまでも管理職だけが  
走り回っているようでは、コミュニ  
ティスクールに進展はない。

##### (三) 校長間の連携

一つの学校で発生した問題を宇部  
市全体の「危機」としてとらえ、全  
ての校長が情報を共有しておくこと  
が大切である。そうすることにより、  
校長は自信をもって素早い判断や動  
きづくりを行うことができる。

#### 五 おわりに

県大会や中国大会での事例発表では、  
「問題解決のために専門家の視点を取  
り入れることが大切」、「学校だけで  
できることとできないことの明確な線引  
きが必要」など、多くの指導・助言を  
頂くことができた。

しかし、地域と一緒に「危機」を解  
決していくとなると、個人情報管理  
や守秘義務の徹底、学校をオープンに  
することへの教職員の抵抗感など難し  
い問題も発生してくる。

##### 宇部市校長会

は、今後もこのよ  
うな課題に対応し  
ながら、家庭・地域・  
関係機関との連  
携、校長同士の連  
携を深め、様々な  
「危機」にスピー  
ディーに対応でき  
る学校体制の構築  
に努めていく。



地域の人と一緒に学ぶ子どもたち

# 研究紹介

自立と共生

## 通常の学級における特別支援教育の 充実を図るための校長のリーダーシップ

組織的支援の体制の整備・充実に向けて

下関市立養治小学校長

長谷川

敬



### 一 はじめに

本支部では、『自立と共生』について研究を進めるに当たり、特別支援教育に焦点を当てた。そして、通常の学級における特別支援教育の現状と課題を明らかにし、組織的支援体制の整備・充実の観点から、校長の果たすべきリーダーシップについて探ることとした。

### 二 研究の実際

(一) アンケート調査による特別支援教育の現状と課題の把握

#### ① 対象

校長及び校内コーディネーター

#### ② 内容

ア 校内コーディネーターによる支援の現状と課題  
イ 校内教育支援の現状と課題  
ウ 学校における組織的支援体制の実際と課題

エ 教職員の意識改革に係る取組の実際と課題

オ 保護者や地域との連携に係る取組の実際と課題

カ 課題解決に向けた取組

キ 大学教授を招聘して、校長の専門性向上に資する研修の実施

ク 講師

コ 山口大学教育学部

カ 教授 松田信夫様

キ 内容

特別支援教育は、周りにいる子どもを育てること

で生きること、教師が全員のための学級経営を行うこと（配慮の一般化）が大切であること、教師一人ひとりの意識改革が絶対条件であることなど。

課題解決に向けた校長の役割に

成が求められている。

今回の研究を通して、本支部の特別支援教育の現状と課題が明確になり、その解決に向けた方向性と校長の役割を明らかにすることができたことは、大きな収穫である。

今後は、校長がリーダーシップを發揮し、組織的支援体制の整備・充実を更に図っていくとともに、学校運営協議会等と連携する中で、地域関係者等を巻き込んだ支援体制を構築する実践を着実に進めていきたい。

今回の研究を通して、本支部の特別支援教育の現状と課題が明確になり、その解決に向けた方向性と校長の役割を明らかにすることができたことは、大きな収穫である。

今後は、校長がリーダーシップを發揮し、組織的支援体制の整備・充実を更に図っていくとともに、学校運営協議会等と連携する中で、地域関係者等を巻き込んだ支援体制を構築する実践を着実に進めていきたい。

今回の研究を通して、本支部の特別支援教育の現状と課題が明確になり、その解決に向けた方向性と校長の役割を明らかにすることができたことは、大きな収穫である。

今後は、校長がリーダーシップを發揮し、組織的支援体制の整備・充実を更に図っていくとともに、学校運営協議会等と連携する中で、地域関係者等を巻き込んだ支援体制を構築する実践を着実に進めていきたい。

今回の研究を通して、本支部の特別支援教育の現状と課題が明確になり、その解決に向けた方向性と校長の役割を明らかにすることができたことは、大きな収穫である。



松田教授による講演

### 三 校長の役割

(一) 校内コーディネーターの機能を強化し、資質の向上を図る。

(二) 校内教育支援を充実させる。

(三) 教職員の意識改革を図るための研修を充実させる。

(四) 保護者・地域住民・学校運営協議会等との連携を推進する。

四 おわりに

今、誰もが相互に人格や個性を尊重し合い、人々の多様な在り方を認め合える「共生社会」を構築する人材の育成が求められている。

今回の研究を通して、本支部の特別支援教育の現状と課題が明確になり、その解決に向けた方向性と校長の役割を明らかにすることができたことは、大きな収穫である。

今後は、校長がリーダーシップを發揮し、組織的支援体制の整備・充実を更に図っていくとともに、学校運営協議会等と連携する中で、地域関係者等を巻き込んだ支援体制を構築する実践を着実に進めていきたい。

今回の研究を通して、本支部の特別支援教育の現状と課題が明確になり、その解決に向けた方向性と校長の役割を明らかにすることができたことは、大きな収穫である。

今後は、校長がリーダーシップを發揮し、組織的支援体制の整備・充実を更に図っていくとともに、学校運営協議会等と連携する中で、地域関係者等を巻き込んだ支援体制を構築する実践を着実に進めていきたい。



グループでの協議

# 研究紹介

## 経営ビジョン

### 先見性のある学校経営に向けての 明確なビジョンの策定と周知

「学校や地域の特色を生かし、一人ひとりの志を育てる経営ビジョン」

萩市立川上小学校長

松 永 隆 幸



#### 一 はじめに

- 萩・阿武支部の小学校は、離島を含めた半数以上の学校が複式学級を有していること
- それに伴い、校長が小中学校を兼務する小中併設校・小中一貫教育校が八校あること

○ 吉田松陰先生の教えが生きた教育活動が展開されていること  
 などの現状や特色があげられる。

そのため、萩市・阿武町の小学校では、これらを考慮した学校運営が求められる。そこで、本支部では学校や地域の特色を踏まえ、先見性のある学校経営を行うために「明確なビジョンをどのように策定するか」「そのビジョンの周知をどのように図るか」という視点で各校の実践を持ち寄り、研究を進めていくことにした。

#### 二 研究の実際

(一) 萩・阿武支部のスクール・コア  
 本支部では、学校や地域の特色を生かした教育活動推進のための核と

なるものとして、学校づくりの方針を「スクール・コア」という短く明確な言葉で表すとともに、本支部の実態から「キャリア教育」「ふるさと学習」「小中一貫教育」の三つの視点でビジョンを策定し、周知を図ることにした。

#### (一) ビジョン策定の具体例

- ① キャリア教育の視点から  
 萩市立明倫小学校では、松陰先生の教えや生き方を学ぶ「松陰教学」からより高い自己実現への意欲を高め、態度を育てることを柱とするビジョンを策定した。

- ② ふるさと学習の視点から  
 萩市立小川小学校では、「地域の『ひと・もの・こと』に学び、生きる力をはぐくむ教育」を掲げ、地域の方から学び地域に発信する「ふるさと学習」を学校運営の中核に据えたビジョンを策定した。

- ③ 小中一貫教育の視点から  
 萩市立小中一貫教育校 福栄小



松陰先生の生き方を学ぶ「松陰教学」

#### 三 校長の役割

- (一) ビジョン策定と周知のために
- ① 学校や地域の実態を把握するため、情報収集に努める。
- ② 学校づくりへの校長の強い願い、熱い思いを発信する。
- ③ 教職員・保護者・地域住民が参



校区町内会連絡協議会への参加

中学校では、小中共通の学校教育目標を設定し、「連続性・系統性・一貫性」を軸に、児童生徒の九年間の成長を見通したビジョンを策定した。

#### (三) ビジョン周知の具体的な取組

- ① コミュニティ・スクール、地域協育ネットと連動させ、地域住民への周知を図る。
- ② 学校だより等を利用して、地域住民・保護者・児童へ周知を図る。
- ③ プロジェクト型組織を活用して、教職員の参画を促し、浸透を図る。

#### 四 おわりに

画する組織をつくり活用する。  
 (二) 創意ある学校経営のために  
 「経営ビジョン策定」「組織・運営」「評価・改善」を効果的に関連させた学校運営を行う。

本支部では、毎年五月の校長会研修会で「私の学校運営」というテーマで経営ビジョンについての情報交換を行ってきた。本年度は、研究を通して、支部の校長同士が共通の課題や思いをもって、「経営ビジョン」について様々な視点から話し合い、研究を進め深めることができ、大変有意義であった。

児童数の加速度的な減少、小中一貫教育や松陰教学の推進という支部共通の課題に、その学校だからこそ、その地域だからこそその強みやよさ、さらに問題点を明確にして、子どもたちの未来を見据えた学校経営をしなくてはならないことを再確認した研究となった。

# 研究紹介

組織・運営

## 学校経営ビジョンの

## 具現化を図る組織づくりと運営

「こどもし合う組織づくり」と  
ときめき感（魅力）ある学校運営をめざして

長門市立明倫小学校長

新江田 智 司



### 一 はじめに

本支部では、「長門みずゞ学園構想」のもと、コミュニティ・スクールと地域協育ネットを基盤として、地域総ぐるみの連携・協働を重視した小中一貫教育を進めている。この取組を進める上で、校長は明確なビジョンを示し、その具現化を図る活力ある組織づくりと運営の在り方を常に考え、子どもにとってよりよい学校づくりとは何かを教職員に働きかけている。実践結果は、「課題の共有と経営ビジョンの明確化」「学校運営協議会の活用」「活力ある組織づくりのための仕掛け」の視点からまとめ、今後の取組への改善・充実を生かしていきたいと考えた。

### 二 研究の視点及び実際

「長門みずゞ学園構想」による六年間の取組の成果と課題の分析

- (一) 学校課題の共有と学校経営ビジョンの明確化
- ① 志の統一化を図るビジョン提示

### 三 校長の役割

(一) 協働：やらされるから、やりた  
いと思わせる仕掛け

- ① 熟議を取り入れた学級担任、校務分掌の決定
- ② 活力を生み出すチーム一丸となった組織づくりの工夫
- (二) 連携：地域に打って出る学校運営の仕掛け
- ① 地域とともにある学校づくり

・学校経営キーワードの設定

- ② 学力向上管理戦略プラン策定・教職員の意識改革につながる戦略プランの提示
- ③ 自己目標シートの活用による本年度の重点目標の共有化

・ゴールイメージの明確化

(二) 開かれた学校づくりのためのコミュニティ・スクールと地域教育ネットの活用

- ① 学校活性化の仕掛け人としての校長の動き

### 四 成果と課題

(一) 成果

- ① ビジョンの明確化と統一化が学校を共同目標実現チームに変え、教職員の士気の高揚につながる



やって見せる校長

- ② コミュニティ・スクールと地域協育ネットの積極的な活用が教師力の向上と元気な学校、地域との絆づくりに寄与すること

- ③ 校長の率先した動きと感謝の姿勢が、課題解決に向かう活力ある組織づくりに結びつくこと

(二) 課題

### 五 おわりに

学校経営を進める上でのリーダーの役割として、次の三つの力を備えることが大切である。

- (一) 俯瞰力を持ち、大所高所から課題に立ち向かう勇氣をもつ。
- (二) 流れを起こし、動きをつくる。「人を動かすより、人が動く。」リーダーになる。
- (三) 先見力をもって、現状を変える仕掛けを練る。

二年間にわたる研究を通し、各校や各みずゞ学園の実態に合わせた様々な取組や仕掛けの工夫が見られた。今後校長間の情報交換や連携を図りながら、研修・研鑽をさらに充実させていきたいと思う。



熟議による経営参画

# 研究紹介

## 社会形成能力

### 社会形成能力を育む教育の推進

～学校の内的資源と外的資源を

活用した取組を通して～

山陽小野田市立厚狭小学校長

楠 裕之



#### 一 はじめに

本支部では、児童の社会形成能力を育成する上で、「児童・保護者・教職員」という学校の内的資源と、「地域」という外的資源をバランスよく教育活動に活用することが重要であるととらえた。

そこで、「学校の内的資源を活用した教育課程の編成」という視点と「学校の外的資源を活用した体験活動の推進」という二つの視点から各校の実践を持ち寄り、本研究課題説明に向けて校長としての役割を探ることとした。

#### 二 研究の実際

(一)学校の内的資源を活用した取組について

- ① 縦割り班活動、異年齢集団活動を取り入れた教育課程を編成する。
- ② 登校班を活用して社会性の涵養を図る。

(二)学校の外的資源を活用した取組

#### 二 ついて

- ① 地域人材の積極的な活用と地域連携による豊かな体験活動を展開する。
- ② 小中連携の充実に努め、豊かな体験活動を推進する。

#### 三 校長の役割

(一)内的資源を有効に活用する教育課程を編成する。

- ① 明確なビジョンの提示と推進体制の整備に努める。
- ② 実態にあった年間計画の作成・評価・修正を行う。
- ③ 危機管理体制の整備・充実に努める。

(二)外的資源を有効に活用するコーディネート

- ① 教職員に対して：校内コーディネートの工夫や活動の脱マンネリ化等を働きかける。
- ② 地域に対して：コーディネート



※(縦割り班読書での)6年生による読み聞かせ

- ① 会議や各種団体との連携に努めたり、コミュニティ・ルームの有効な活用等に努めたりする。
- ③ 小中連携に対して：校長ミーティングや小中連携教育研修会等を通して連携を強める。

#### 四 成果と課題

(一)成果について

- ① 縦割り班活動や異年齢集団活動による児童の自己肯定感や自己有用感、達成感等が育った。
- ② 地域の人々とのかわりを通じ、地域への愛着や地域社会の一員としての自覚が深まった。
- ③ 児童の社会形成能力をめざす教育活動及び、学校・家庭・地域の協働体制が充実した。

(二)課題について

- ① 児童の社会形成能力育成の意義と重要性を、学校・家庭・地域へ

#### 五 おわりに

- ② 各方面と双方向の創造的なコーディネートへの推進に努めること。
- ③ 児童の社会形成能力の涵養をめざした教育課程の研究・実践を推進すること。

急激にグローバル化していく社会環境の中で、児童の社会形成能力の育成は重要かつ急務である。それを委ねられた学校教育の責任者としての重責を自覚しながら、共同研修に励んだ。

そして、すべての学校には、その能力を育てる魅力ある内的資源と外的資源が潜在的かつ豊富にあるという確証を得た。

学校や地域に応じた内的資源を活用する教育課程と、地域の外的資源を活用するコーディネート「の在り方を学校・地域総がかりで取り組んでいきたい。



地域の人との「梅もぎ」作業

◆ 対策部 ◆  
未来を拓くたくましい「やまぐちっ子」の  
育成に向けた提言を

対策部長

吉 鶴 修



少子高齢化やグローバル化が進行する中で、小学校教育においては、次期学習指導要領改訂に向けた対応やいじめ、不登校問題をはじめとする児童の健全育成への取組等、教育課題は山積している。このような課題の解決に向けて、全連小は、子どもと向き合う時間を確保するための教員の定数改善や人的措置、学校教育への信頼を一層高めるための教職員の資質向上を図る施策などを国に要望した。

本県においても、未来を拓くたくましい「やまぐちっ子」の育成に向け、本年度も各支部の校長先生方の貴重な御意見をいただき、提言書の作成に取り組んできた。また、中学校長会や教育関係諸団体と連携しながら、教育行政と学校が力を合わせて山口県教育を充実させるという視点で提言書をまとめた。

さて、山口県教育委員会においては、めざす「やまぐちっ子」の姿として、「高い志をもち、未来に向かって挑戦し続ける人」「知・徳・体の調和がとれ、

他者とのつながりを大切にしながら力強く生きていく人」「郷土に誇りと愛着をもち、グローバルな視点で社会に参画する人」の三つを設定し、山口県らしい教育を推進している。小学校長会としても、県の教育目標の実現に向けて、一丸となって努力しているところである。

提言書に新たに加えた主な内容は、「主幹教諭の配置」「学校の安定化」「学力分析支援ツールの積極的活用」「やまぐち型地域連携教育の推進」の四つである。この四つの内容は、山口県教育委員会が重点的に推進している学習指導の改善・充実や教職員の資質能力の向上、地域と学校が連携した子どもの育成などを踏まえたものである。

今後、全連小の動きを注視しながら、未来を拓くたくましい「やまぐちっ子」の育成に向け、教育行政とともに知恵を出し合い、関係諸団体と連携して、小学校長会としての提言を行っていききたい。

各 専 門 部 か ら の 報 告

◆ 研究部 ◆  
受け継がれていく「志」

研究部長

兼 重 光 雄



昨年度は、全連小山口大会を開催し、多くの感動と成果を残して無事終了した。その成果は、本年度の本県小学校長会萩・阿武大会に引き継がれるとともに、全連小高知大会や中国地区小学校長会広島大会にも確実に受け継がれていった。その研究のキーワードとなるもの、それは「志」であった。改めて、山口大会での提案が、これからの教育に大きな指針を示したものと考える。

にたくましく生きる子どもを育てる学校経営の推進」という大会副主題の下、「校長の果たすべき役割と指導性」という視点にそった研究協議が活発に展開された。また、講演では、研究視察を組み入れる工夫がなされ、充実した研修となった。

本年度、萩市で開催された山口県小学校長会萩・阿武大会は、従前の五領域十分科会に戻し、担当支部の研究発表・研究協議を行った。大会の成果を参加した会員が確実に持ち帰ってもらえるものにすべく、大会運営委員会及び研究推進委員会では、

さらに、十一月に開催された中国地区小学校長教育研究大会広島大会においては、岩国支部が「豊かな人間性」「字部支部が「危機対応」、下関支部が「自立と共生」の各分科会で提案発表をされた。各発表は、単なる実践発表に留まらず、研究の成果と課題をPDCAサイクルにより実証的にとらえたマネジメント研究であり、山口県小学校長会の研究の質の高さを示すものとなった。

延べ八回の会議を重ね、準備に当たっていた。また、開催支部である萩・阿武支部においては、大会の詳細についての立案・準備等、幾度となく打ち合わせを重ねられ当日に臨まれた。その綿密な計画により、「志を高くもち 未来に向かって共

本年度の研究への取組は、各支部校長会の主体性が随所に見られた。このことは全連小山口大会で提案した「志」が全国に広まるとともに、一人ひとりの校長自身に受け継がれているものと推察する。さらに今後の研究推進につなげていきたい。

「志を高くもち 未来に向かって共

なげていきたい。



調査活動から見えるもの

◆ 調査部 ◆

調査部長

山下 茂生



教育改革が急速に進む中、国では学習指導要領の改訂に関する中央教育審議会答申が出され、今年度中には新しい学習指導要領が告示される予定である。

このような中、校長には、自己研鑽と情報収集に努め、明確なビジョンをもちながら学校経営を推進していくことが求められている。

調査部では、県小学校長会の活動方針に基づき、「調査処理委員会」と「経営管理委員会」を組織し、継続的な教育調査と当面する課題究明のための調査研究を行った。両委員長を中心に、各部署の熱意により、その結果を「教育調査資料」としてまとめた。

市町教育費調査では、どの市町も財政的に厳しい状況にあり、前年度より教育費が減少している市町が多い。特に需用費が削られている市町が多く、日々の教育活動への影響が懸念される。

一方、様々な課題を持つ子どもの増加から、支援員の予算は増えている。

次年度の学級編制及び教職員配置調査では、児童数が今後も減少傾向にあ

り、それに伴って学級数・教職員数の減少が予測される。また、大量退職、大量昇任・採用が続くことが予測され、教育水準を保つための人材育成が求められる。この他にも学校が抱える課題は山積しており、それらの解決のためにも、必要かつ適正な教職員配置が望まれる。

よりよい学校経営に関する調査では、自校の学校経営上重要と考える課題は、「コミュニティ・スクール及び地域協育ネットの推進」が一番多く、県政の施策「やまぐち型地域連携教育」の推進に努力していることが伺われる。また、教職員へ指導を図るべき内容は、「授業改善」が一番多く、学力向上に力を入れていることが分かる。校長自身が、学校経営の最高責任者として社会の動向を的確に捉え、学校経営の舵取りをしていることを感じた。

おわりに、本調査にご協力いただいた市町教育委員会や関係各位に心から感謝申し上げます。

各 専 門 部 か ら の 報 告

◆ 広報部 ◆

山口大会の成果と課題の発信

広報部長

山住 英朗



広報部では「校長自らの姿勢と学校経営上の課題を明確にし、生きる力の育成と創意ある教育活動を目指し、信頼される学校経営の充実に努める。」という田中会長の提言の具

現化を図るために、「会報」編集委員会と「歩み」編集委員会の二つの委員会を組織し、次の五つの努力点を掲げ、広報誌「会報」と機関誌「歩み」の編集・発行に取り組んだ。

- 一 会員に親しまれ役に立つ「会報」「歩み」にするための工夫
- 二 各支部の創意ある教育活動や『志』を育む学校運営の紹介
- 三 本会の活動方針の浸透と、活動内容の周知及び情報活動・速報活動の充実
- 四 本会HPの周知と活用
- 五 全連小広報活動への協力・連携

各位や各方面の方々の温かいご協力の賜であると感謝している。

昨年度は、全連小山口大会が開催され、分科会特集記事を掲載したが、今年度は、その成果と課題を検証する大事件であり、さらなる研究の深化に迫った取組の発信となる「会報」と「歩み」を発行できたと思う。

全連小広報部は、創意ある学校経営に資するため、積極的な広報活動を行うとともに、小学校教育振興のための世論の喚起をめざして「教育研究シリーズ」や「小学校時報」、「全国特色ある研究便覧」等を発行している。お忙しい中、これらの活動に協力していただいた皆様に、改めて心よりお礼を申し上げます。

今後も、会員の皆様方に生きて働く、そして、会員相互の情報共有の場となるような、機関誌・広報誌をめざし、内容の充実に努めていくとともに、これからも、広報部の活動にご理解とご協力をお願いしたい。

# 支 部 情 報

## 光 支 部

### 光あふれる学校づくり 連携・協働を通して

光市は、「連携・協働を重視した学校づくり」の実現に向け、幼保小中の学校間連携および中学校区を単位とした地域連携を基軸として、一五歳までを見通した学力向上や生徒指導の充実等をめざし、具体的な施策を全市一丸となって実施している。

光支部は、附属光小を含む一二校で組織され、年九回の定例研修会を実施している。研修会は今年度から各校持ち回りで実施し、研修・協議の他に、各校の施設見学や授業参観を行いながら、各校の状況について情報共有を積極的に行っている。また、こうした定例研修会の他に、「光市連携・協働教育推進協議会校長部」を年三回開催し、小中連携のさらなる充実に向けて、小中合同による校長研修会も実施している。

各中学校区においては、小中校長会の発案により、中学校区要覧を作成しており、校区における小中連携、小中連携、コミュニティ・スクールなどの取組について整理し、地域の関係者や関係機関に積極的に情報公開を行っている。

いる。小学校は今年度コミュニティ・スクール設置三年目を迎え、各小学校での取組の充実とともに、中学校との連携が



促進され、多くの取組が実現した。例えば「中学校生徒による陸上競技大会に向けた指導」、「東北大震災の復興プロジェクト」ひまわりプロジェクトの合同実施」、「夏季休業中の小学校補習授業への中学生の協力」などがあげられる。

さらに、光市教育研究会では昨年度から教科研究部会を中心に、春秋の年2回、一斉研修会を小中合同で開催しているが、次期学習指導要領改訂を見据え、小学校外国語活動部会を今年度から教科研究部会に位置付け、小中合同による英語教育研究の環境が整ったことも大きい。

「チーム光」の総力を結集し、今後ともきめ細かな情報交換と活動後の成果と課題の分析を適切に行いながら、「光あふれる学校づくり」に向けた体制作りをめざしたい。

(上島田小学校 谷口 政仁)

# 支 部 情 報

# 支 部 情 報

## 美 祿 支 部

### 日本ジオパークを活用した 学校づくり

平成二十年三月に美祿市、秋芳町、美東町の一市二町が合併して新たにスタートした美祿市小学校長会は、現在十七名の小学校長で構成されている。十七校の小学校の内、十校は複式学級を有しており、複式教育の研修も盛んに行われている。また、美祿市では複式学級の解消に向けて、適正規模・適正配置が平成二十六年より検討され、小学校の再編・統合が行われている。来年度は東厚小学校と川東小学校が厚保小学校に統合し、平成三十年度には嘉万小学校と別府小学校が統合して新たに秋芳桂花小学校となり、市内の小学校数が十四校となる予定である。

となる予定である。

昨年度、美祿市が県内で初めて「日本ジオパーク」に認定されたことを受けて、各小学校では、地域の特色ある自然や文化・伝統などを学習材とした「ジオ学習」を行っている。この学習では、地域の方々の協力が欠かせない。このことにより、地域の方々と深くかわる状況が生まれ、コミュニティ・

スクールの充実にも寄与している。また「みね型地域連携推進事業」により、各地域の中学校校区を単位とした小中拡大大学校運営協議会の設立が進み、小中学校が連携したコミュニティ・スクールの充実も図られつつある。

来年度の秋季研究大会では本市校長会が、第二分科会（組織・運営）において、「未来を見据えた学校経営に生かす評価と改善の推進と校長の役割」という研究主題で提案する。前述した「みね型地域連携教育推進事業」による美祿市内七つの中学校区でのコミュニティ・スクールの具体的な取組を通して、この研究主題を説明していく予定である。

旧美祿市の石炭、秋芳町の石灰岩、美東町の銅を由来として、美祿市は「黒と白と赤の町」と称している。美祿市の各小学校区には、それぞれに魅力的な地域の自然や文化・伝統に特色がある。それらのジオ資源を、地域とともにある学校づくりにどのように生かしていくか。美祿市の小学校長会の会員が一致団結し、意見交換をしながら研修を深めていきたい。



(別府小学校 亀谷 秀雄)



中国の古典である「大学」の中に「明德新民」とあり、これは本校創学の精神である。「人は生

まれながらによいところをもっている。そのよさを十分に発揮することが、明德であり、それを社会に広げていくとよい社会ができる」という意味である。新任校長として着任した今年度、研修主題を「自ら考え、判断し、表現する力を育む授業づくり」として、ともに学びを深め、自分の思いを育む読解力の育成をめざしている。昨年度の「授業づくり拠点校」として取り組んだ成果を生かして、授業研究やICT研修を計画的に実施したり、県立図書館と連携して読書活動を推進したりして国語力の向上を図っている。

ついて、十月には、全国学力・学習状況調査の結果をもとにして問題検討と学力向上の取組についての講座を担当した。自分のこれまでの知識や経験を教職員へ積極的に情報提供するとともに、教職員の円滑な人間関係づくりと心掛け、教職員それぞれの良さを生かしながら、教職員の協働体制づくりを進めた。今後も継続して率先垂範に取り組み、体制強化を図りたい。

本校の創立は、明治十八年。昨年度には創立百三十周年を迎えた。旧校歌の歌詞には、「世の中段々開けます ぐずぐずするとおくれまず 子供の中和油断せず 皆さんしっかりつとめませう」とある。これまで保護者や地

域の方々とともに築いてきた伝統、長きにわたって創り上げられた学校の歴史。それらには多くの人の思いが込められている。子どもたちがしっかり努力し、夢の実現に一步でも近づけるよう、家庭や地域との連携を密にして、地域を代表とする伝統校としての取組をより充実させていきたい。

### 明德新民の精神で

周防大島町立明新小学校長 林 哲 也

# 飛 耳 長 日

### 温かな地域とともに

山口市立串小学校長 上 田 富士子



今年度着任した串小学校は、四方を山に囲まれた標高約三百メートルの大地にあり、夏はホタル、冬は雪景色と四季を通じて美しい自然に恵まれた場所にある。児童数が一桁

になって三年目、地域の方々にとって子どもたちは地域の宝であり、地域行事も学校行事もいつも、子どもたちを中心にたくさんの地域の方々の笑顔がある。地域には「ゆたかな串を育てる会」という有志の会があり、地域のよさや特色を発信しながら、コミュニティ・スクールに指定されるずっと前から、地域の子どもは地域と学校とで一緒に守り育てるといふ思いを大事にしてこられた。先日学校行事の時期の見直しをする際に、地域行事の時期が地元の方々の農作業との関係で決まっているの、学校はそれを十分踏まえて、地域の方々の生活や気持ちに配慮しながら見直していかなければいけないと考えていた。しかし、地域の方の思いは違っていた。学校が子どもたちのために一番よいものを提案して

ほしいということだった。学校が子どもたちのためにこうしたいという思いを地域全体で支えたいと聞いたとき、大らかで温かなこの串地域に感謝すると同時に、学校は地域の子どものよさも課題もしっかり把握し、子どもたちを伸ばすことに更に必死で取り組んでいかなければいけないと強く思った。地域の方の思いが学校へのエールのようにも感じた。

地域協育ネットやコミュニティ・スクールの推進が叫ばれ、「地域と学校が一緒に子どもたちを育てよう」という言葉をよく聞くようになった昨今、子どもたちのために何をするのか、何ができるのか、歩み寄りたり、譲り合ったり試行錯誤しながら進めている現状がある。そのような中で地域も学校も「子どもたちのために」という思いをしっかり共有し、子どもたちの成長をとともに喜び合うよい関係を築いていきたいものである。

地域のリーダ的な役を担っておられる方に、串地域の団結力の秘訣を聞くと、さり気なく言われた。「人を動かそうとするなら、自分が一番に動くことです。そして、動くことを苦にせず、楽しむことです。」地域の中でいつも信頼され、温かな輪の中心にいられる方の深い言葉である。

微力だが、地域の方への感謝の気持ちを忘れず、一緒に元気な串っ子を育てていきたい。

平成二十一年五月十九日から長門市教育委員会教育長に就任され、約七年間、地域性を生かした「長門市らしい教育」に取り組みました。その間、力を入れて推進された「長門みずゞ学園構想」や「地域協育ネット」、全国レベルの取組について、前教育長である江原健二さんにお話を伺った。

**\*「長門らしい教育」に取組まれた経緯ときっかけ等について教えてください。**

平成二十一年三月末、山口県立下関南高等学校長を最後に定年退職しました。校長時代、金子みずゞさんの娘のふさえ様が下関南高校の卒業生であったことから「金子みずゞ学習イベント」と香月泰男画伯が同校の教師であったことから「香月泰男画伯を偲ぶ会」を開催しました。そのことが、御縁で、長門市教育委員会教育長という重責を仰せつかりました。教育長の約七年間は、夢と希望、創造、勇気、チャレンジ、ボランティア活動等をキーワードに全身全霊を傾けて、夢あふれる子どもたちの育成に取り組みました。

まず、行ったことは、高校教員であったことから、小学校や中学校の現場に向き、子どもたちや教職員、保護者の皆さんとのふれあいや交流を重視し、教育現場を第一に考えた教育行政を進めました。次に、長門みずゞ学園構想のもと、

ふるさとの童謡詩人金子みずゞさんのまなざしと感性、優しさを大切にしたい心の教育を基調としながら、コミュニティ・スクールを基盤とした小中一貫教育を積極的に推進しました。

平成二十二年度には、文部科学省主催の教育長熟議に出席し、さらに、県下初となる熟議「長門の教育を考える」

### 探訪シリーズ この人 この歩み 長門市の教育を振り返って



前長門市教育長  
コミュニティ・スクール教育アドバイザー  
江原健二さん

発に尽力し、山口県のコミュニティ・スクール指定率を全国一位に繋げていきました。

平成二十五年度は、文部科学省の支援で「熟議」を導入したことから、全国高P連大会山口大会で、「模範熟議」長門市の教育を考える」を披露し、全国からも高い評価を受けました。

平成二十六年度は、全国コミュニティ・スクール研究大会 in 下関で、シンポジストとして長門市の取組を全国に情報発信するとともに、さらなる取組を進めることを誓い合いました。

このように一連の全国レベルの取組をはじめ、県内のコミュニティ・スクールの普及を図り、地域総ぐるみで子どもを育む新しい仕組みづくりにより一定の成果を収めることができました。

各みずゞ学園のトップリーダーとしての資質向上、発想の転換、意識改革、学び続ける姿勢など、まだまだ教育改革を推し進めることが山ほどあると考えます。

本年四月からは、コミュニティ・スクール教育アドバイザーとして、学校支援ボランティアや講演活動等を通して、座右の銘「一期一会」や「子どものために」を大切に、県内はもろろん全国に出向き、コミュニティ・スクールの普及・啓発のための教育活動を展開し、ささやかな夢を追いかけています。



各みずゞ学園では、地域の特性や児童生徒の実態を踏まえた共通の目標を設定し、コミュニティ・スクールや地域協育ネットの活用を図りながら、九年間の一貫した教育を推進している。

(浅田小 岡田敏男)

## 編集後記

リオデジャネイロで開催されたオリンピック・パラリンピックでは、日本選手だけでなく大会に参加した全ての選手から、弛まないチャレンジ精神と、チームとして目標達成に向けた協働体制づくりの大切さを感じた平成二十八年度も終わろうとしている。

皆様のおかげで、今年度も年二回の「会報」発行を無事に終了することができた。今年度は、昨年度開催された全連小山口大会の実績を踏まえた上で、従来の五領域、十の分科会に戻して新たなスタートを切った。「研究紹介」では、各支部で研究課題解明に向けた特色のある取組や成果を紹介すること、また、「支部情報」では、各支部の特色ある研究や活動の様子を紹介すること、そして「飛耳長目」では、先生方の学校や保護者、地域への熱い思いを感じ取ることでできた。さらに、「この人・この歩み」では、様々な分野で活躍しておられる方からの熱い思いや示唆をいただくことができた。今年度七名の編集委員は「会報」の発行に向け、各支部における取組をつないでいくという役割を大切にしたいという強い思いで編集に取り組んだ。おわりにあたり、ご多用にもかかわらず、原稿執筆を快諾していただいた皆様に感謝の意を表し、編集後記としたい。